

もうあとは自分たちでどの原子がどんなイオンになるのか、イオン同士の結びつきのルールまで見つけてしまえずし、電気分解の仕組みの理解まで中学1年で到達できます。年間10回、楽しい実験(爆発実験が多い!!)や化学史、生命のビデオを織り込みながら、自然認識や考える楽しさを育てています。

教科外活動でも、毎年4月の研究所見学(筑波研究学園都市は研究所に囲まれています!)の際は必ずレポートをまとめますし、中学2年の自然人文巡検、中学3年の国内研修では徐々に高度なレポートが課され、指導・評価されていきます。中学3年の国内研修の基本テーマは“日本文化の源流を探る”ですが、7~8人の班ごとにさらに個別テーマを設定する。例えば「仏教と神道の融合について」というテーマにした過去のある班では、班員が手分けして「仏教とは何か」「神道とは何か」「いつから融合が始まったか」「現在にどのような影響が及んでいるか」「京都周辺ではどこでフィールドワークができるか」を調べました。国内研修の2ヶ月前から調べ始め、1ヶ月前に学年生徒全員で寮に1週間宿泊する短期入寮中の夜に設定される“事前学習会”では連日夜9時半まで図書館にこもり、班員でディスカッションして“班テーマと調査目的・事前調査・訪問希望場所と目的”などをまとめます。担当の教員に見せ、甘いところを指摘され再検討。これを繰り返します。結局この班は密教として東寺、神道として八坂神社、現在に残る融合例として京都市街の祠のフィールドワークを行いレポートにまとめました。

というテーマにした過去のある班では、班員が手分けして「仏教とは何か」「神道とは何か」「いつ



から融合が始まったか」「現在にどのような影響が及んでいるか」「京都周辺ではどこでフィールドワークができるか」を調べました。国内研修の2ヶ月前から調べ始め、1ヶ月前に学年生徒全員で寮に1週間宿泊する短期入寮中の夜に設定される“事前学習会”では連日夜9時半まで図書館にこもり、班員でディスカッションして“班テーマと調査目的・事前調査・訪問希望場所と目的”などをまとめます。担当の教員に見せ、甘いところを指摘され再検討。これを繰り返します。結局この班は密教として東寺、神道として八坂神社、現在に残る融合例として京都市街の祠のフィールドワークを行いレポートにまとめました。

こういう取り組みをもう25年継続しています。訪問希望先には文書を送り、生徒が電話をしてアポイントメントを得ます。作成したレポートは後輩が参考にできるように、すべて図書館に収納されています。この取り組みにはたく

さんの Study Skills が含まれています。中学1・2年で得てきた単純な段階の Skills をステップアップさせる部分、例えば『討論方法』のほとんどを授業者の誘導なしに自分たちで行うレベルにアップさせますし、『調査方法』の「文献調査」や「WEB 調査」をかなり深く行うことになります。また、この中3国内研修で新たに獲得する Skill もあり、例えば『疑問の抱き方』の中では訪問先での質問が伴うので「質問項目のレベル階層整理」や「質問事項の表現方法」を学んだり、『調査方法』の「訪問調査の方法」を学びます。これまでは教科から出題される個人の課題としてフィールドワークや、自然科学巡検として観察主体のフィールドワークを体験してありますが、施設や個人を訪問して質問するのはここが初めてとなります。

(次号へ続く)

田代 淳一

たしろ じゅんいち

茗溪学園中学・高校 広報部長

化学の教師です。茗溪学園では前向きで明るく逞しく積極的な青年が育っています。「有名大学に行きたいから勉強する」のではなく、「中学・高校時代にいろいろな事に挑戦し、失敗し、考え、自分を探して、自分で自分の将来をみつけ、自分で歩いていく。その方向が地球を救い、人類の未来を拓く方向であってほしい。」そう考え、支援するのが茗溪学園の教員の役割です。海外生・帰国生が自分の力で自分の未来を切り拓いてきた経験はここで開花します。これまでたくさんの帰国生が、夢を追いながら進学していく姿を見て応援してきました。よろしくお願いします。

茗溪学園中学校高等学校

〒305-8502 茨城県つくば市稲荷前 1-1

TEL. 029(851)6611 (代) FAX. 029(851)5455

<http://www.meikei.ac.jp/>

ひと言

アメリカの教育の中で最も重要だとされているスタンディ・スキルを、日本のカリキュラムの中で実践している唯一の学校ではないでしょうか。

その内容を、田代先生に具体的に紹介していただきます。日本の学校の先生達にも読んで欲しい内容です。

松本輝彦